

「大学を卒業したらどんな暮らしをしたいですか？」
学生に質問をしたら、明確な答えが返ってくるだろうか？

自分が大学生の時は、全く答えられなかった。

芸術系大学でモノづくりを学びスキルを身につけても、
個人作家として暮らしていくことは難しいと感じている人は少なくないだろう。

アートやデザインを学ぶ学生は、未来の暮らし(=仕事)、をイメージできるのか？
その問い掛けから、今回のNUA ART SHOPは始まっている。

この企画は、在学生＆卒業生の作品を販売する限定ショップ。学生たちに、モノづくりで暮らしていく「素敵な事例」を体感してもらおうという試みだ。仲間や先輩が活躍している様子を販売の現場で感じて欲しい。そして、自らの作品をラシックという真剣なビジネスの場で販売することで、モノづくりで暮らしていくための「学びの出口」を見つけて欲しい。

あなたが今、手掛けている作品があって、これは素敵だ！と感じているなら、そこには、人の心を揺さぶるエッセンスが詰まっている。その想いは誰かに届いているだろうか？ 伝えようとする試行錯誤が実を結ぶ時、多くの人が作品を購入し、あなたの未来が作られる。



NUA ART SHOP 店内風景

とはいえ、思い描く未来に一直線にたどり着くことは、滅多にない。
興味ある分野とは違うな、と感じる仕事に向き合っているうちに、「こうりたい」というゴールに繋がっていたという場合が多いものだ。

参考までに、自分は今、イベントデザインの仕事をしているけれど、今に至るまでの経歴は色々。大学ではハエの研究をしていました。
ハエ(蠅)、ですよ。

学生に輝ける未来があることを。。。 クリエーターズネット 代表 植森理人

第30話 『日本画とはなんだ』

今年三月に担当した特別展「日本画の可能性～若手作家からの提言」で改めて思ったが、この問いに明確に答えるのは難しい。「日本画」という言葉は明治時代に洋画(油絵)と対して作られた概念・言葉であり、画材の違いで一応の説明はできるが、それだけではどうしても違和感が残る。『広辞苑』(第6版)には、「明治以後にヨーロッパから入った西洋画に対し、日本在来の技法・様式に基づいて明治時代に創出された絵画を指す語。墨や岩絵具を主として、若干の有機色料を用い、絹・紙などに毛筆で描く」とあり、多くの人が抱く「日本画のイメージ」はこの通りであろう。しかし実際には「伝統に基づく技法・様式＝日本画」という図式は成立しない。絹や紙、毛筆以外のものを使用し、描く事もあるし、油彩画の影響を受けた厚塗り表現や写実表現、イラスト的表現、抽象表現などが用いられる事もあるからである。そもそも日本文化は、古来より外部からの刺激を柔軟に受け入れ、変化させてきた。それこそが日本の伝統であるとするならば、「日本画」という言葉の認識や概念は常に変化し、その時々々の「今」を示しているのかもしれない。



特別展「日本画の可能性～若手作家からの提言」展示風景

芸術一話

ART WORDS
FROM THE
ART WORLD

30

古川美術館学芸員

山内 綾子

Ayako YAMAUCHI

2021 09 - 2022 02
EXHIBITION SCHEDULE

西 Campus Art&Design Center West

Open 12:15-18:00 (最終日は17:00まで) 日曜休館 **入場無料** どなたでもご覧いただけます。
スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 9/24 画→ 9/29 画 「芸術教養レビュー」第4回展 **東西合同** / 書道アート展9
- 10/ 1 画→ 10/ 6 画 助手展 **東西合同**
- 10/ 8 画→ 10/13 画 アークリ博覧会
- 10/15 画→ 10/20 画 日本画3年コース展 / ファッショントゾウケイ
- 10/25 画→ 11/17 画 The Practice of Everyday Practice 日常の実践の練習 **東西合同**
- 11/19 画→ 11/24 画 同時代表現展・スタジオ展
- 11/26 画→ 12/ 1 画 MCD Department 2021 (メディアコミュニケーションデザインコース展)
- 12/ 3 画→ 12/ 8 画 メディアデザインコース展
- 12/10 画→ 12/15 画 From Denmark 2021展 / 2021年度 後期交換留学生展
- 12/17 画→ 12/22 画 洋画コース2・3年生選抜展
- 1/ 7 画→ 1/12 画 工芸展(陶芸・ガラス)
- 1/14 画→ 1/19 画 第4回 芸術教養レビュー3

東 Campus Art&Design Center East

Open 11:00-17:00 日曜休館 **入場無料** どなたでもご覧いただけます。
スケジュール、タイトルは変更になる場合がありますので、ご確認ください。大学行事のため、日曜以外も休館する場合があります。

- 9/24 画→ 9/29 画 「芸術教養レビュー」第4回展 **東西合同**
- 10/ 1 画→ 10/ 6 画 助手展 **東西合同**
- 10/ 8 画→ 10/10 画 PLAY! In MEIGE!
- 10/12 画→ 10/20 画 ヴィジュアルリテラシー“foundation I-みつける・うけとる”
- 10/25 画→ 11/17 画 The Practice of Everyday Practice 日常の実践の練習 **東西合同**
- 11/19 画→ 11/24 画 NAC作品制作活動支援プログラム新アラムナイコレクション展
- 11/26 画→ 12/15 画 新・博物誌展
- 12/17 画→ 12/22 画 ORCA
- 1/ 7 画→ 1/12 画 舞台芸術展
- 1/14 画→ 1/26 画 第2回 芸術教養領域 卒業研究展



名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL [0568]24-2897 FAX [0568]48-0173

Ble Vol.55

発行日 2021年9月22日

編集・発行 名古屋芸術大学アート＆デザインセンター

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of the Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社



Art & Design Center West | Shopでは
展示開催期間に併せて本学にゆかりのある
作家たちによるアート作品・アクセサリーの
販売を行なっています

名 称: Art & Design Center West | Shop
場 所: Art & Design Center West 館内
営業時間: 12:15-17:00

編集後記

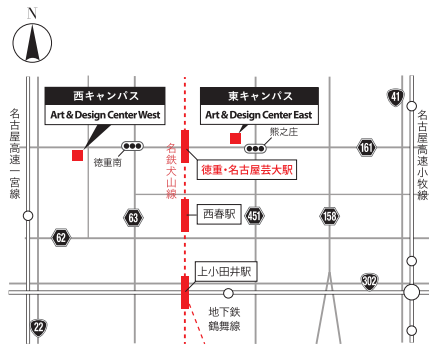
昨年は本学東キャンパスに新しくギャラリーができました。

両キャンパスのリソースを使い、合同展示など東西をつなぐ
展開を考えていきたいと思っております。

また今度からはアート作品、グッズを販売するショップを
展開し始めました。

当館ではアーティスト、クリエイターの両方が活躍できる
場所を提供していきたいと考えております。

市川 岳志 (アート＆デザインセンター)



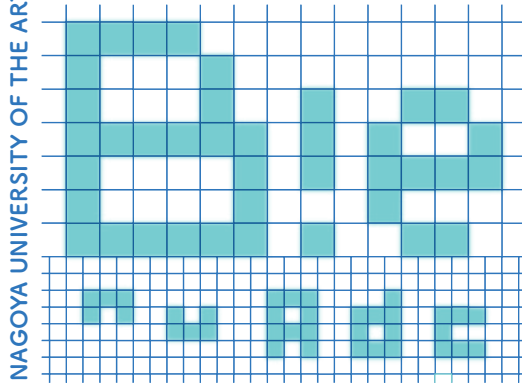
最寄りの交通機関をご利用の場合

名鉄大山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)徳重・名古屋芸大駅下車
西キャンパスは 西へ約1,000m徒歩 13分
東キャンパスは 東へ約600m徒歩 8分



大学基準協会認定マーク
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に
適合と認定され、認定評価を再取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。
これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも
合格したことになります。

ART & DESIGN CENTER NEWS



55

コロナ禍の影響により芸術における表現の形態が変わりゆく時代の中、
舞台芸術の世界においても新たな変革が生まれています。

今回は舞台芸術の世界で国内外で活動され、

今年度より新たに設立した本学芸術学部舞台芸術領域の専任講師でもある
浅井信好氏が主宰する「月灯りの移動劇場」の中から、
円形舞台「Peeping Garden」についてお話をお伺いしました。

変わりゆく舞台芸術のあり方

一月灯りの移動劇場について

パリを拠点に活動してきた浅井信好と奥野衆英によって、2015年に名古屋で創
設されたフィジカルシアターカンパニー。「ものづくり+舞台芸術」をテーマに創作
拠点である中川運河近郊の町工場や事業者そして、国内外で活動をする建築家、
美術家、音楽家、ダンサー、俳優などとコラボレーションを行いながら、野外劇場
を中心に全国で公演を行なっている。2017年グッドデザイン賞受賞。



「KOKO TO SOKO」



「アイウオーラおばさまの家」

浅井信好 プロフィール

1997年～2005年までストリートダンサーとして活動。WORLD HIP-HOP CHAMPIONSHIPを
はじめ数多くの賞を受賞する傍ら、SMAP、サカナクション、ファースターズなどの振付を担当。
2006年～2011年まで山海塾に所属。2010年にボラ美術振興財団在外研修員としてベルリン
へ派遣。2011年に文化庁新進芸術家海外研修制度在外研修員としてイスラエルのパット
シェバ舞踊団へ派遣。2012年～2015年までパリを拠点にPIERRE MIROIRを設立し、8カ国
15都市で作品を発表。これまでに7th ARTE LAGUNA PRIZE、グッドデザイン賞、愛知県
芸術文化選奨新人賞などを受賞。

パリファッションウィーク2021春夏コレクションにて、中国人デザイナーZiggy Chenとの
コラボレーション作品「Dividing Line Between」を発表。その他、東信、山本基、山口小夜子、
中村達也、渋谷慶一郎とのコラボレーション作品なども国内外で発表。
ダンサーとして、ダミアン・ジャレ + 名和晃平 『VESSEL』、ダレン・ジョンストン 『Zero Point』、
ナセラ・ベラザ 『La Travers』、Phantom Limb Company『Falling out』、スー・ヒーリー
『ON VIEW PANORAMA』らの世界ツアーに参加。これまでに35ヶ国150都市以上で公演。
近年、フランス、ドイツの共同番組ARTE『MOVE』にて舞踏家として、ドキュメンタリー番組で
特集を組まれる。2017年より、コンテンポラリーダンスのプラットフォーム《ダンスハウス黄金
4422》の代表を務める。名古屋芸術大学芸術学部舞台芸術領域専任講師。

受賞

- 2002年 - WORLD HIP-HOP CHAMPIONSHIP 1st (アメリカ)
- 2006年 - 第6回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞
及びキリンダンスサポート(日本)
- 2009年 - International Photography Awards 1st PLACE(アメリカ)
- 2013年 - ベネツィアアルセナーレ ARTE ART PRIZE LAGUNA12.13
特別賞(イタリア)
- 2013年 - Festival international de dance contemporaine D'ABIDJAN
最優秀作品賞(コートジボワール)
- 2014年 - 愛知県芸術文化選奨新人賞受賞(日本)
- 2014年 - エルサレム国際振付家コンペティション ファイナリスト(イスラエル)
- 2015年 - NEXTREAM21コンペティション 最優秀賞(日本)
- 2017年 - グッドデザイン賞受賞(日本)
- 2017年 - Asian Solo&Duo Challenge for MASDANZA NDA賞(韓国)
- 2017年 - VIII Premios PADベスト照明デザイン賞にノミネート(スペイン)



「はてしない物語」

—Peeping Gardenのプロジェクトを終えて—

2020年から県内5会場でPeeping Gardenを上演してきましたが、2021年8月から10月にかけて上演作品を再構築し、8都市10会場での全国ツアーを開催します。会場となるのは、劇場空間に限定せず、野外や倉庫などの空間も利用しています。

新作【Peeping Garden / re:creation】では、内部空間に1tの珪砂を敷き詰め、自然環境の構成要素である地形(土壌)を再現することで、人工的な自然環境を劇場内部に設置しています。そして、観客の「覗く」という行為と珪砂によって作り出された「人工的自然環境」という設定を振付によって繋ぐことで、観客がパンデミックの影響によって「自然回帰」する衝動の芽生えに気づいてもらえるのではないかと思います。パンデミックにより、資本主義社会が長い時間をかけて、効率化と利便性を図るために、築き上げてきた社会構造の脆弱さが浮き彫りとなりました。それは密集した「都市」という考え方を再構築する転換期なのかもしれません。

今後、効率化を求めるために密設計されたオフィスや住環境は分散という形で弱まっていくだろうと言われています。それに伴い、人々の意識は空気の澄んだ場所を求めて、外へ向かっていくでしょう。それはすなわち、自然をより身近に感じることでできる住環境や生活環境を求めていくという自然回帰の衝動の芽生えではないでしょうか。



—円形舞台Peeping Gardenについて—

「Peeping Gardenができるまでのプロセス」

Peeping Gardenは2020年4月に発令された緊急事態宣言によって、劇場や美術館などが閉館・休館に追い込まれる中、アーティスト達は活動や発表の場を失い、観客は鑑賞の場を失ったことを機にスタートしました。芸術文化がパブリックに開かれた「公共のもの」であるからこそ、芸術は観客によって守られ、その活動が支えられてきたが、感染及びその拡大予防策として、「社会的距離」|「ソーシャルディスタンス」の保持が大きな課題となっています。

本プロジェクトでは、ソーシャルディスタンス円形劇場をオリジナルでデザイン、設計、施工し、新たな舞台鑑賞形式を提案することで、社会的な距離を保ちながら、安心して鑑賞できる形式を生み出し、芸術における社会課題の解決策を提示するとともに、アフターコロナにおける社会と芸術の在り方を提案するプロジェクトでもあります。

このソーシャルディスタンス円形劇場では、30枚の各扉に設けられた2つの穴から内部のパフォーマンスを鑑賞するとともに、壁によって仕切られた個室空間を作り出すことで、ソーシャルディスタンスを維持し、演者と観客が対峙する構造を作り出しました。

「作品テーマ」

Peeping Gardenでは、「見ること、見られること」をテーマにパンデミックによって浮き彫りになった「検閲」といった社会課題を作品コンセプトとして扱っています。

「コンセプト」

ソーシャルディスタンス円形劇場の特性である「穴から覗く」という行為によって、鑑賞者の視界はカメラのファインダーを覗く時と同様に、画角が限定されます。視界を限定すると、観客とダンサーの視線の交わり方は英語で表記するとLook, See, Watch, Peepなど様々な「見ること・見られること」の相互関係によって、関係性を築いていきます。すなわち、鑑賞者は能動的に視点を移動させ、内部のパフォーマンスを追いかける行動原理が働くことで、ダンサーや内部空間を監視、鑑賞、観察など様々な角度からパフォーマンスを見ていることに気づくのです。

昨年6月末に香港で施行された「香港国家安全維持法」では、権威主義政権の台頭により、芸術表現や言論の自由の侵害が強く懸念されました。そして、パンデミックの状況下では、人々は疲れや、いら立ちを覚えることで、他者へのすさまじい「制裁欲求」が世の中に渦巻いており、何かちょっとでも落ち度があれば、容赦なく糾弾され、切り捨てられるような「検閲社会」の影を感じずにはいられません。

鑑賞者は、ときにダンサーを穴から覗き見ることで、他者を監視したいという衝動の芽生えに気づくのかもしれません。

—舞台芸術の今後の可能性、あり方について—

月灯りの移動劇場では、これまでに3つの移動劇場を製作してきました。私が活動拠点としてきたフランスではヌーヴォー・シルクと言われる現代サーカスが盛んで、野外テントやサーカス専用劇場を使った公演が国内各所で行われています。

劇場という環境は舞台芸術において、最も重要な非日常を演出するための工夫が長い年月をかけて考案され、劇場設計が行われています。そのおかげで、劇場空間という制約の中でこそ、作り出すことのできる無限の可能性を追求することが可能となります。しかし、その反面、劇場に訪れる人々の数は、日本という文化の土壌では限定されてしまいます。私は「芸術とは、人々が幸福に生きるためのファクター」となしてほしいという願いがあり、地方都市や僻地であろうと芸術は平等に市民へ提供されるべきだと考えています。

パンデミックの状況下で、劇場へ訪れることへの不安を持つ観客が増えていることは事実です。私自身も同様の不安を感じることもあります。しかし、現実や制約をネガティブに捉えるだけでなく、芸術と社会が結びつくことで、どのように社会課題を解決し、芸術の本質的価値を提供できるかをアーティスト自身は考え続けていかなければならない使命があると思います。

私は【Peeping Garden / re:creation】のコンセプトにも掲げているように、これからの新生活様式の中で、密に対する人々の考え方は大きく変化し、空間における空気の流れの良し悪しを意識するようになるでしょう。だからこそ、舞台芸術においても、サイトスペシフィックな場所でのパフォーマンスもこれまで以上に多く行われていくと思いますし、月灯りの移動劇場が手掛けるような移動劇場の価値も益々、高まっていくと思います。

すでに2022年に向けて、Peeping Garden海外ツアーも計画されていますし、新たな移動劇場の計画もスタートしています。



— 次回告知 —

【Peeping Garden/re:creation全国ツアー】

世界各国メディアも注目する「ソーシャルディスタンス円形劇場」が出現！
壁と扉。隔絶された空間で、「穴から覗く」。その先に見る世界は…
回想としての砂庭。自然への回帰。生命の再生。
躍動からはじまる「循環」への旅を、3人のダンサーが描き出す。
「見る」側は「見られる」側へと転換しながら、自らの“視感”を探り始める。
その瞬間、ダンサーと観客との境界線は取り払われ、“Close contact”の関係となっていく。
ウィズコロナ時代の新たな鑑賞形式として反響を呼ぶ作品を、全国ツアーにて再演。

◆2021年10月01日~10月03日

月灯りの移動劇場公演

【Peeping Garden/re:creation】

会場：リンナイ旧部品センター特設野外劇場(愛知県/名古屋)

◆2021年10月16日~10月17日

月灯りの移動劇場公演

【Peeping Garden/re:creation】

会場：用宗漁港(静岡県/静岡市)



詳細&チケット予約
はこちらから



月灯りの移動劇場

Mail : tsukiakaritheater@gmail.com
Web : <https://tsukiakari-theater.jp>
Address : 453-0803
愛知県名古屋市中村区長戸井町4丁目42-2
黄金4422BLDG.